

関係部署へ
回覧下さい

包装技術講習会

「航空輸送と船舶輸送の輸送環境計測の実例報告」と

「RFID の特徴を活かした金属梱包容器の管理と応用」

日時 平成29年11月28日(火) 13:15~16:30
会場 愛知県産業労働センター(ウイंकあいち) 11階 1103会議室
名古屋市中村区名駅4-4-38
参加費 無料(どなたでもご参加いただけます)

プログラム

コーディネーター

あいち産業科学技術総合センター 産業技術センター 環境材料室長 石川 敬一 氏
名港海運株式会社 営業二部 取締役部長 山口 淳 氏

13:15~14:45

「航空輸送と船舶輸送の輸送環境計測の実例報告」

～航空輸送と船舶輸送の輸送環境からその留意点を考える～

一般社団法人日本海事検定協会 執行役員兼横浜第一事業所長 斎藤 威志 氏

当会では公益目的事業の一つとして、貨物輸送の安全のために「貨物輸送中の衝撃値(加速度)に関するデータベースの作成」と題し、様々なモードの輸送環境における加速度を計測して、当会のホームページ上で無償公開しています。既に計測を開始して5年経過しておりますが、現在までに陸上ではトラックと鉄道、海上では RORO 船と台船、また昨年からは航空機で加速度を計測しております。その計測を開始するまでの検討過程や計測手法、また計測結果の一部の中で特に航空輸送と船舶輸送について報告し解説いたします。

14:45~15:00

<休憩>

15:00~16:30

「RFID の特徴を活かした金属梱包容器の管理と応用」

～国際物流状上での金属梱包容器の RFID 化実証実験の成果紹介～

株式会社デンソーエスアイ 新事業推進部 部長 新海 直樹 氏

ID データを一括高速読み取りできる RFID は、流通や製造業で入在庫管理やトレーサビリティ管理等に活用されています。データを何度も書ける特性を活かして、前工程で書いた品番や工程情報を自工程で使う用例もありますが、これは近年のタグ容量拡大と書き換え可能な特性をリターンブルな梱包容器の用途にマッチさせている例です。一方、国際物流でも使用される高額な 金属製梱包容器は個体管理が必要であり、この用途でも RFID が期待されています。経産省からの受託事業として、国際物流の実環境で金属製梱包容器に RFID タグを貼付して、効用と課題を確認する実証実験を昨年度までの2年間他社と共同で行ったので成果を紹介します。